「点画少異字」にみる文字研究

萩原義雄

はじめに

室町時代の古辞書『**下學集**』の巻末に見える「点画少異字」は、序文そして意義分類仕立ての標記語とその語注記に示された漢字文字との連関性は薄い。何故、このような資料が巻末に置かれたのかと興味はつきない。さらに、この「点画少異字」が同世代数十年間のなかで改編されつつ、イロハ引き・意義分類の『**節用集**』類にも必要性を有するものとして継承されていく。この影響の原点は、実は中国宋代の書籍である字書や類書(百科語彙)に編纂・掲載されていたものを、本邦にてもいち早く吸収し、ここに収載したというところであろうか。

漢字の点画の類似する文字が何故発生し、このように用いられたのかをここで問うことはしまい。『**運歩色葉集**』が指摘する「漢字廿四億字也」にいう、多くの漢字が創作され、長い年月をかけて継承されてきた。そのなかで、現代人の私たちの眼で見ても全体の漢字語数と比してその数は微小であり、漢字知識能力の教養性としては、初級・中級の理会を得た者に、まだ上を目指せといわんばかりに高度な基準値に立つ文字群をここに示し、これら学習者にさらなる漢字教養を邁進せよと叱咤激励するメッセージがここに隠されているのではなかろうか。上級レヴェルへの窓口ともいえるこれら「点画少異字」を示してみせる編纂意識が実は重要なのであるまいか。それは、ただ単に識字能力を高めるのみに留まるのでなくして、これを目にした者に〝読むこと〟と〝書くこと〟との漢字能力として意識させる働きがあるといってもよかろう。換言するに、世俗という立場からみれば、このような「点」や「線画」の微細な部分を注意するのはどうでもよかろうという大衆文字意識から見れば、それとは全く逆行する辞書編者の凛として糺した気骨さそのものがこれである。この逆意識の文字群をここに置くことで、編者である禅僧**東麓破衲**が密かに北叟笑む姿態が私にも想定できるのである。

平成12年(2000)日刊20856号

11|14［火］

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<綱・網>　綱は音コウ、つなと訓じる。網は音モウ、あみと訓じる。綱は「網の目をすべる大きなつな」（詳解漢和中字典）。そこから、おおもと、かなめの意が生じ、綱目、綱紀、大綱などの熟語を作る。儒教に三綱五常の教えがある。三綱は君臣、父子、夫婦の人として取るべき道。五常は仁・義・礼・智(ち)・信の５つの徳目。（塩）

平成12年(2000)日刊20859号

11|17［金］

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<券・券>　刀と力とが別字と知る人も、性格がおおざっぱだとえてして「入場券」などと書いて疑問にも思わない。読む方もちゃんとニュウジョウケンと読んでいたりする。券も確かに音はケンだから、「入場券」はニュウジョウケンとしか読みようがないが、これではチケットの意にはならない。券は“疲れる”の意の全くの別字。（塩）

平成12年(2000)日刊20862号

11|20［月］

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<円・丹>　活字にするとあまり似ていないが、手書きだと往々紛れる。円はエン・まるい、丹はタン・あか。タンチョウヅルは丹頂鶴で、頭のてっぺんが赤い。赤心はまごころのことだが、丹誠もまごころの意だ。丹は、よく練った薬の意味にも用いられる。万金丹や反魂丹などの丹がそれ。安本丹（あんぽんたん）はそのもじりか。（塩）

平成12年(2000)日刊20864号

11|22［水］

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<傳・傳>　傳は常用漢字「伝」の正字体で、新聞ではこの字体はほとんど用いない。音デン、つたえる・つたわる・つたうと訓じる。傳は音フ、おもりする、かしずくの意で、傅育(フイク)といえば、おもりして育てること。漢字の構成要素「甫」は右肩に点があり大体ハ行で始まる音を持つが、ハ行の音でない傳には肩の点はない。（塩）

平成12年(2000)日刊20866号

11|24［金］

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<柿・柿>　しげしげと見比べていただきたい。全く違わないという人もいるに違いない。それほどよく似た両字だが、柿はシ・かき、柿はハイ・こけらで別字なのだ。柿はつくりの部分の艹と巾とが離れているので漢和辞典の木の部の５画、柿は縦の棒が上から下に突き抜けているので４画にある。柿葺きではこけらぶきと読めない。（塩）

平成12年(2000)日刊20867号

11|25［土］

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<崇・崇>　崇は音スウ、崇拝、崇敬、尊崇、崇高などの熟語を作り、“あがめる”と訓じる。字のてっぺんに山が乗っているが、そんな高い山を仰ぐように尊いものを仰ぎ見るときの心情が“あがめる”。一方、崇は“たたる”と訓じる不吉な字。だから間違っても「崇拝」などと書いてはいけない。音のスイも、どこか紛らわしい。（塩）

平成12年(2000)日刊20870号

11|28[火]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<師・帥>　ともに常用漢字。師は音シ。教師、恩師、老師、師事、師弟など先生、師匠の意に用いるほか、医師、絵師、技師、漁師、猟師、美容師、占い師など、ある技術・技芸の専門家、専門的職業という意味にも用いられる。詐欺師、地面師などもその特異の技能によって師のうち？　帥は音スイ、元帥・統帥などと用いられる。（塩）

平成12年(2000)日刊20872号

11|30[木]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<陝・陝>　陝は音セン、陝がキョウで別字。狭も挟も狭も正字は峽、挾、狹。つくりの大の左右には「人」がいる。さすれば、常用漢字のつくりの部分の略体は「夾」に同じである。だが、中国の簡体字に陝西省の「陝」に「陝」が用いられていて、時として日本の著作物に「陝西省」の表記が出てくる。「陝西省」とすべきだろう。（塩）

平成12年(2000)日刊20873号

12|1[金]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<冑・青・靑>　冑は注意すれば紛れることもあるまいが、青と靑は字体がよく似ている。音は両方ともチュウ。冑は甲冑（かっちゅう）の冑でかぶとの意。冒は〝おかす〟と訓じられるが、冒頭の冒は〝かぶる〟の義。その冒の上部の日を平べったくした部分が実は冑の下部と同じなのだ。一方、靑は肉月に属し、世継ぎ・血筋の意。（塩）

平成12年(2000)日刊20876号

12|4[月]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2000
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111(大代表)

夕刊

言葉の雑学

<祇・祇>　天神様といえば道真公または道真公を祭った天満宮を指すが、天神地祇（ちぎ）といえば天の神と地の神、合わせてあらゆる神々のこと。わが国では祇は天つ神に対する国つ神の意に用いる。往々この地祇が地祇に作られるが、祇は音シ、つつしむの義。祇候（しこう）は謹んで貴人のおそば近くに仕える意。別字である。（塩）

こうした意識をもって、現代の知識人がこのような「点・画の少しく異なる字」を如何に見てきているのかということを含め、いまここに考察するものである。

一　現代人のみる「点画少異字」

二〇〇〇年の秋から産経新聞の夕刊一面右上に〝ことばの雑学〟[注1]として、日々一組ずつこの「点画少異字」の漢字が紹介されてきている。これを少しくここに紹介しておこう。

この「点画少異字」をただ眺めていたのでは、何も応えてくれない。実際にどのような場面でどのようにして、私たちの日本語における言語生活というなかで使用されているのだろうか。この紙面を毎夕密やかな楽しみにしている私のような読者が他にもいることをもっとも感得する瞬間でもある。どうぞ皆さんも大いに知って活用していただきたい。

二　近代国語辞書『大言海』と「点画少異字」

本学の国語演習Ⅰのなかで、近代国語辞書である大槻文彦編『大言海』[注2]を取り上げてきている。この辞書は、これまで繙き読むことが主であったためか、その使用漢字そのものについて詳細に考察した研究はまだみない。この国語辞書が現代の大型国語辞書が誕生するまで多くの分野で用いられてきたことも知りうるところである。学生との演習のなかで学生自身がこの辞書収載漢字を入力していて誤入力してしまう漢字がいくつかある。これを指導する私が氣づいたところで「似て非なる熟語表記字」として二三報告するものである。

1、土郷（ドつち）　郷士・土（シものふ）　郷士

ガウシ【郷士】農ニシテ、武士ノ籍（ミブン）アル者。郷侍（ガウザムラヒ）。

を「郷士」と「土」を「土」に誤入力する。なんせ「郷士（キヤウド）」ということばがあるから無理はない。

2、秦（シンはた）　秦国・泰（タイやすし）　安泰

アンタイ【安泰】安ラカナルコト。無事ナルコト。安穏。安康。易林「解釋倒懸」、歴國安泰」

を「安秦」と「泰」を「秦」に誤入力する。

3、人（ニン・ジンひと）　人夫・丈（ジヤウたけ）　丈夫

ヂヤウブ【丈夫】（一）スコヤカナルコト。身體ニ病ナキコト。達者。壯健　狂言記、梟「マコトニ日比、丈夫ナモノデ御座ルガ、何ト致イテムツケマシタカ」（二）確（シカ）トシテ破レ難キコト。強固。堅固。堅牢

を「人夫」と「丈」を「人」に誤入力する。

4、永（エイながし）　永山・氷（ヒヨウこほり）　氷山

ヒョウザン【氷山】海洋中ニ浮游スル大氷塊ノ稱。南北兩極洋、又ハ、高緯度ノ地方ニ在リテハ、氷河ノ末端、延イテ海岸ニ及ビ、或ハ舌狀ヲナシテ、海中ニ突出シ、コレラノ次第ニ破碎シ、或ハ、波浪ノタメニ切斷セラレテ、遂ニ海上ニ浮遊シ、海流ニ随ヒテ低緯度ノ洋上ニ流レ來リテ、航海ノ船舶ニ、危害ヲ與フルコトアリ。

を「永山（ながやま）」と「氷」を「永」に誤入力する。

いずれも「点画の少し異なる字」から成っており、1・3・4は、熟語として同じ漢字を冠沓に持つものである。このことからも文意によく注意せねば見誤る恐れが生じてくる。たとえば、1の「郷士」の語を学生自身が新たに採取し、補遺の用例として入力した場合、

伊賀上野の無足人（むそくにん）〔郷士級の農民〕に生れた彼は、藤堂良忠に出仕して愛寵をうけ、俳諧の手ほどきをうける。

といった文章の注記箇所で「郷士級の農民」としてしまうことをここに指摘しておきたい。已下は紙面の都合上示さ

ない。

三　江戸時代の「点画少異字」意識

江戸時代の漢字識字能力はめざましい。記録資料『**槐記**』[注3]第六〔享保十四年己酉自閏九月〕に、

〇二十一日夜、参候、常陸、玉ノ井他出ニ付
賓退録ヲ校合アソバス、末ノ諸國貢献ノ處ニ、藥名多シ、普通ノモノニヤ、一覧シ申シ上グベキノ由仰ナリ、畏テ拝見ス、水馬二十枚トアリ、水馬ハ黽虫ノ異名ニテ、池澤ノ中毎ニ存スルモノナリ、何ノ貢スベキモノニアラズ、考ベキ由ヲ申ス、又海馬ノ一名タル由ヲ申シ上グ、本艸備考ニテ考之、又蛍魚骨二十枚トアリ、蛍ノ字字書ニ不レ見、尜ノ字ハアリ、蚩ノ字ニ同シトアリ、考フベキノ由仰ラル、歸テ和漢和名ニテ考レ之ニ、和名抄ニ一名小蛸虫トアリ、然レバ小蛸ノ字ノ略ナリトシテハイカヾト申シ上グ、尤ナリト仰ナリ、小蛸魚骨ハ烏賊魚骨也。イカノコウナリ、

とあって、「蛍」と「尜」そして「蚩」を紹介している。これなどは漢字を良く熟知して猶知りたいと意識する特殊な文字といってよかろう。他に現代でもよく目にする漢字として、第六〔同年十一月廿六日夕〕に「藤」と「籐」を記し、『正字通』を繙き「イカサマ籐字可レ考コトカ」としている。

四　室町時代の古辞書『節用集』の「点画少異字」

広本『節用集』は、「**點画少異字**」と古写本『**下學集**』を継承し、**易林本『節用集』**には、「**分毫字様**（ブンガウシヤウ）凡二百四十八字」として、同じく古写本『**下學集**』の「点画少異字」を収載する。その排列は、元和本『**下學集**』では通番60（補充42）に位置する。この資料の典拠だが、中国の字書からの影響が尤も想起せられ、実際、慶長年間出版の『**大廣益會玉篇**』に同様の実例がある。[注4]これをみるに、「玉指南」十四丁左から十七丁右にかけて「分毫字辨」として「逕還」から「己巳」までの一二四対の二四八字があり、これに「上平證疑」「下平證疑」「上聲證疑」「去聲證疑」「入聲證疑」の八一対一六二字の収載が見え、合計二〇五対四一〇字から成る。これと**易林本『節用集』**[注5、6]の排列とが概ね合致する。というのは完全一致でないということである。そこで異なりについて見てみるに、「分毫字辨」だけでも次の如くとなる。

1　易林本『節用集』にあって、『大廣益會玉篇』に未収載の「對字」八対十六字

易林本通識211「戊戌」（古写本『**下學集**』及び元和本『**下學集**』春良本『**下學集**』に収載在り）

易林本通識125「偏偏」（元和本『下學集』に収載在り）
易林本通識205「鼓鼓」
易林本通識206「美美」
易林本通識207「疋疋」
易林本通識208「王玉」
易林本通識209「㠯㠯」
易林本通識210「丹月」

2　標記文字と反切の異なり「對字」三種

易林本通識　8「窰窒」の「音遙」と「音逕」
　↓上「餘昭切」下「古定切」
易林本通識　30「棟棟」の「棟」郎甸反
　↓上「揀」古限切
易林本通識　42「攘榱」↓「攘臂」、
　「音衰」　↓下「失追切」

3　反切字及び注記字の異なり「對字」三種

易林本通識　36「樅摐」の「摐」反切
「七江反」　↓　「楚江切」&「打鐘也」↓「鐘也」
易林本通識　49「焌煖」の「焌」反切
「子閏反」　↓「七津切」&「然火」↓「火焌」
易林本通識　55「橪撚」の「橪」反切
「而善切」　↓「人善切」&「酸小棗」↓「束也」

4　反切字の異なり「對字」一三種

易林本通識　14「諂諂」の「諂」
　反切「丗冉反」　↓「丑歛切」
易林本通識　25「晴晴」の「晴」反切
　「七盈反」　↓「子盈切」
易林本通識　28「凍凍」の「凍」反切
　「得紅反」　↓「得洪切」
易林本通識　34「狻猊」の「狻」反切
　「素官反」　↓「素冠切」
易林本通識　53「綆綆」の「綆」反切
　「婢連反」　↓「娌連」
易林本通識　61「奓多」の反切
「陟加反」「徒可反」↓「徒可切」「陟加切」
易林本通識　69「敗敗」の「敗」反切
　「武巾反」　↓「武申切」
易林本通識　71「暖暖」の「暖」反切
　「祝袁反」　↓「況袁切」
易林本通識　87「咀咀」の「咀」反切
　「茲治」　↓「茲于切」
易林本通識　97「荀筍」の「荀」反切
　「祖倫」　↓「先倫」
易林本通識　108「甲甲」の「甲」反切
　「古洽反」　↓「安洽切」
易林本通識　111「天夭」の「夭」反切
　「於嬌」　↓「於矯切」

易林本通識　124「己巳」の「巳」反切
「羊巳」→「羊里切」

5　注記字の異なり「對字」十九種

易林本通識　32「媛援」の「鞋ー」→「桂ー」
易林本通識　36「樅摐」の「打鐘也」→「鐘也」
易林本通識　37「橦撞」の「花為布」→「花布」
易林本通識　48「捐損」の「弃」→「棄」
易林本通識　54「琄塤」の「樂也」→「樂器」
易林本通識　56「檀擅」の「栴檀」→「木也」
易林本通識　57「搋榹」の「束縛」→「束也」
易林本通識　68「檬橡」の「木也」→「木名」
易林本通識　74「根拫」の「根木」→「根本」
易林本通識　75「掊棺」の「棺椁」→「棺槨」
易林本通識　86「椿椿」の「椿橛」→「木椿」
「木也」→「木」
易林本通識　89「栒拘」の「栒杞」→「木名」
易林本通識　93「揩楷」の「木名」→「木也」
易林本通識　98「言言」の「並脣皮」→「並脣破」
易林本通識　99「敞敝」の「極也」→「多也」
易林本通識　101「挺挻」の「挺持」→「挺時」
易林本通識　104「皁早」の「黒也」→「黒色」
易林本通識　107「脛脛」の「直視也」→「直視」
「脚脛也」→「脚脛」
易林本通識　122「枝技」の「人姓」→「枝柯」
また、「上平證疑」「下平證疑」「上聲證疑」「去聲證疑」「入聲證疑」については、〝分毫字様排列表〟を参照していただきたい。

6　広本『節用集』「點畫少異字」と『下學集』「點畫少異字」

次に**広本『節用集』**に見える「點畫少異字」だが、次の段で取り上げる**『下學集』**[注7]をどの程度継承しているかを見ておく必要があろう。実際、九一対一八二字が収載されていて、このうち易林本と比較して六〇対一二〇字異(五四、六%)なっている。このうち、**広本『節用集』**が単独収載は三〇対六〇字(二七、三%)に及ぶ。逆に継承すべき**『下學集』**との異同を考察するに、

元和本通識　11「筧莧」　元和本通識　14番「菅管」
元和本通識　56「元亢」

の三種に留まり、56は、古写本中にあって文明十一年本や春良本にも見えない語である。**広本『節用集』**がどのようなところから単独収載の「點畫少異字」を採取したのかを今後問わねばなるまい。

7　易林本『節用集』「點畫少異字」と元和三年版『下學集』「點畫少異字」

7—1　対漢字群の排列

下記に示す二種の元和三年(一六一七)本は、**易林本『節**

用集』（慶長二＝一五九七年）に影響されているという見方が考えられる。というのは、**易林本**『**節用集**』の巻頭漢字が湯本本通番60島田本通番42「還逕」にあり、これを湯本本の通番56から59島田本の通番38から41という対漢字がひとつの資料の切れ目となっていて、ここからこの**易林本**と『**大廣益會玉篇**』[注8]の巻頭漢字が置かれており、湯本本は通番60から158島田本は通番42から140までほぼ連携して記載されているからである。そして、なぜ**易林本**『**節用集**』だと判定したかといえば、湯本本通番158島田本通番最後の140「偏偏」が『**大廣益會玉篇**』には未記載にあるからである。字排列については、易林本に依拠する元和本だが語注記についてみると、**元和本**『**下學集**』湯本本通番33・島田本通番15の「棟（ウトウナギ）　棟（アウチ）」は、**易林本**『**節用集**』通番30では、「棟（アウチ）　棟（ウトウナギ）」と逆に置換し、その注記も「上ハ梁也。下ハ木ノ名」から「上郎間反、木名。下都弄反、屋―」として、「梁也」を「屋―」に置換しているがこれには拠らずにその名の示す『**下學集**』の語注記をそのまま継承するのである。

次に7・8・9・10・11・12・13・14・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37の三十種に及ぶ対漢字は、**易林本**『**節用集**』には未記載にあることが知られるのである。何故、**元和本（島田本）補充写真**『**下學集**』の前半部に位置する対漢字群をこのように大幅に移動したのかは、湯本本の25から55をもって収載する対漢字によるといった複雑な排列方法で記載している。そうした島田本編者の意図を問わねばなるまい。

7―2　語注記の異なり状態

次に対漢字の下に見える語注記の異なり状態を通識番号をもって対校して確認してみると、

易林本通識　8「窰」の語注記「焼瓦也」
↓湯　67・島　49「焼瓦」
易林本通識　21「経」の語注記「孝―」
↓湯　2・島　×番「麻帯」
易林本通識　30「棟」の語注記「屋―」
↓湯　33・島　15「梁也」
易林本通識　36「摐」の語注記「打鐘也」
↓湯　89・島　71「打鐘」
易林本通識　38「憧」の語注記「往來」
↓湯　5・島　×番「往来ノ皃」
易林本通識　42「榱」の語注記「屋棟也」
↓湯　94・島　76「屋棟」
易林本通識　43「時」の語注記「―節」
↓湯　95・島　77「時也」
易林本通識　49「焌」の語注記「然火」
↓湯　99・島　81「火焌」

易林本通識　56「擅」の語注記「自專」
↓湯　10・島　×番「專也」
易林本通識　68「橡」の語注記「木也」
↓湯　115・島　97「木名」
易林本通識　73「髡」の語注記「髮垂」
↓湯　120・島　102「髮也」
易林本通識　75「掊」の語注記「―船」
↓湯　122・島　104「掊舩」
易林本通識　80「晷」の語注記「日出」
↓湯　125・島　107「日晷」
易林本通識　92「湎」の語注記「沈―也」
↓湯　134・島　116「沈湎」

《上に易林本『節用集』の通識番号、下に元和本『下學集』の通識番号をもって提示する》

といった十四種の語注記に異なりをみる。このうち、「也」の付加による異なりが四種ある。この他、準体助詞「の」を欠く語注記「木名」「馬名」「犬子」「獣名」「水中浮木」が八例見える。また傍訓の削除や付加が若干見えている。

五　室町時代の古辞書『下學集』の「点画少異字」

1、古写本『下學集』を継承する古写本『節用集』

中国の字書からの影響として、慶長年間出版の『大廣益會玉篇』に同様の実例があることを前段に指摘した。他に『字考』の「考疑似字」で三八四対の漢字が収載されている。だが、この中国の字書両書と『下學集』とではその共通性を見出すことはできない。あくまで上記、慶長年間成立の易林本『節用集』との連関性のみである。だが、『下學集』が何等かの中国の字書・類書[注9]に示唆されてこの「點畫少異字」が巻末に記載されたことは推定できるものでもある。そして、古写本『節用集』に同じく継承され、それが改変増補するものと削除されていくものとがある。

1―1　対漢字の排列

古写本『下學集』収載の「点画少異字」は、今回示した対校表では三本にすぎないが、文明十一年本に六五対一三〇字、陽明文庫本に七三対一四六字、春良本に七六対一五二字とこれも区々である。対漢字の排列も陽9・文12の「治冶」を初めとして陽37・文40の「筋筯」、陽40・文46の「筋筯」などと異なりを見せている。とりわけ、春良本は通識番号で示すに、6・35・38・44・45・46・48・49・50・51・52・53・58・64・73・74・75・76の十八種は他に未記載の春良本独自の対漢字群であることが確認できる。

1―2　対漢字の異同

文明十一年本通識番号63「印卯」、陽明文庫本通識番号68「卯夘」、春良本通識番号67「卯卵」と三種の対漢字となって表出する。ここで三種に共通する字が「卯」であり、

これに「印」「夘」「卵」が関わっている。そして、広本『節用集』は、この語を未収載にする。易林本は陽明文庫本の「卯夘」と共通する。

1―3　語注記の異同

語注記の異同については、**春良本『下學集』**が最も異なりを見せるのは本文篇と同じく改編増補という編纂方針において一貫している。たとえば、通番1の「推椎」の「椎」語注記で見れば、「鎚也」を「槌木」としたり、通番10の「篷蓬」の語注記では、「上ハ席類。下ハ蓬莱」を「上ハ席ロ之類、雨之時覆フ船ニ也。下者莱エモギ之類也」と詳細な注記へと変貌しているのが特徴である。

2、元和三年版『下學集』にみる二種の「点画少異字」

元和三年版『下學集』には、刊記「元和三年丁巳孟夏吉旦梓焉」の「吉」の部分が異なる二種の刊本が存在し、山田忠雄博士は「下学集」解説(元和三年版下學集・古辞書叢刊第二、新生社刊)のなかで指摘され、島田本は「AB類がともかく元和中の刊行かとみとめられる底の古雅をたもつに対し、この本は、形骸はなるほどAB類によくにてはゐても、すでにすべての文字、すべての字画において暢達の風をうしなひ、おほくの寛永版にみられる稚拙のおもむきがただよひはじめている。おそらく刊行の時期は元和三年よりも若干くだるものであらう」という。これを口絵写真で示すところの主たる名で示すに「湯本本」と「島田本」という呼称で今後論ずることにしたい。

この二種の元和三年版だが、この「點畫少異字」において最も大きな差異をもって編集されている。この点については、後者に位置する島田本が何故このような置換をして編纂せしめたのかその理由について一切語られずじまいにある。この置換理由を解く鍵として、**元和本**(島田本)『**下學集**』通番1の「天夭テンヨウ」は、『**下學集**』序文に云うところの、

自リ吾得テ集知ル二大ノ之為レ天ルヲ譜フス二土也ノ為レ地ルヲ

に関わる「天」の漢字を含んでいるのである。これは当時すでに分解・合成機能による文字習得を専らとしていた学僧鞭撻者にとって、この「一に大きは天、土に也は地」といった示しであり、ここを引くうえで、**元和本**(島田本)『**下學集**』の編者がこの語を先頭に位置させたことは当然のことであった。この不可解な編集を知る手がかりは、島田本が本来の湯本本の先頭に「還逕」の対漢字直前に示すところの「元亢ケンカウ」「兄允キヤウイン」「項頃カウキヤウ」「生出セイスイ」といった対漢字群があって、これら四対の漢字には音読表記しか記載が見えず、その意義説明の語意とか、この漢字を含む熟語とかが全く未記載にあるのである。この四対の漢字は他に継承収載されていないことも注目すべき点である。版本類の**元和本**『**下學集**』や**易林本**が古写本『**下學集**』を継承し、この四対の漢字の次に位置する通番42を先頭にしているこ

とは、この元和本（島田本）『**下學集**』そのものがかなり特殊なものであることを教えてくれている。何故このような形態を世に示そうとしたのかはまだ多くの課題を抱えている。この回答になるかわからぬが、時代を同じくするであろう『**小野篁哥字盡**』[注10]のような教育向け文字集の隆盛が大いに関わっているのではないかという推測は持っている。そして、そこには時代のインパクトさが意識化されていることは確かであろう。

対漢字の語排列について対校表[注11]にしてみるに、**元和本**『**下學集**』の上記に示した四つの対漢字の前に排列されている対漢字群は、僅かに1・2・3・4・5・6・15・の七種の対漢字のみが収載されるに留まるのである。このうち、1から6の取り込み排列は大いに散在しているが、やはり、これらを全く無視するのではなくこれを収載する。むしろ、島田本が古写本『**下學集**』を継承する湯本本の対漢字のうち湯本本通番1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18という、ちょうど、記載一ページ分に相当する十八種の対漢字の語を知ってか知らずか欠脱している点にある。

おわりに

以上、本邦において室町時代を文献収載の魁とした「**點畫少異字**」約三一〇種について考察を試みてみた。そして、江戸時代の『**字考**』が三八四種、現代では「**似て非なる漢字**」約四〇〇種が登録されている。産経新聞夕刊の「ことばの雑学」がこの四〇〇種すべてを連載するのかは編者のみが知ることであるが、現代日本語における漢字応用学として期待したい。また、日々の文章表現のなかで漢字は視覚で読みとり、紙面や電子媒体に記録するうえでも最上級の漢字修得の学びともいえよう。この「**點畫少異字**」が音と訓、そして注記に留まらず、二十一世紀の日本語による言語生活にあって、「**似て非なる漢字**」群の実際の語用例を確り採録していくことがなされて然りだと私は考えている。とりわけ、江戸時代の文献資料『**槐記**』のごとき実用例がまだ近代文献資料まで明海（あかるみ）になっているとは思えないからである。今後の漢字文献がどのように享受され、どう変貌していくかということは、若い世代における「漢字」という文字そのものにより親しむ教育システムが必要となろうかと考えている。この意味からも「**點畫少異字**」を本邦における一番の魁としてしめしてみせた『**下學集**』の編者、東麓破衲の才覚溢れる知識は大いに評価してよかろう。その意味からも、室町時代の古写本として今日に伝来する四十種に及ぶ諸本の検証分析によるところの『**下學集**』原形態を知り、派生形態を見るといった研究は、今後も継続され続けねばなるまい。

《二〇〇〇・一一・三〇付記》

補注

1 産経新聞夕刊「言葉の雑学」掲載の「似て非なる漢字表記」群が何を典拠にしているのかは未審である。いま、時期を同じくして、加納喜光著**『似て非なる漢字の辞典』**（東京堂出版）が刊行されている。

2 大槻文彦編**『大言海』**（冨山房）を使用。

3 近衛予樂院殿家熙公口授、保壽院法眼山科道安筆記**『槐記』**は、史料大観記録部（上中下三冊）明治三十三年、哲学書院刊行を使用。

4 杉本つとむ著作集6**『辞書・事典の研究I』**（八坂書房刊）第五章「増補下學集」の研究—近世国語辞典の世界をさぐる—三近代語としての語彙・仮字の実態（三三五頁）があり、中国の字書からの影響と推定せられ、慶長年間出版の**『大廣益會玉篇』**に同様の実例があることを指摘しておられる。

5 **『節用集』**のなかで、他に**黒本本『節用集』**（白帝社刊）に「點畫少異字」、岡田希雄旧蔵（国会図書館蔵）**『節用集』**（葉山書院刊）に「點畫少異」、新写永禄五年本**『節用集』**（臨川書店刊）に「點畫少異字　下孝集在之分加之」などが知られている。

6 **易林本『節用集』**（天理図書館叢書）を使用。

7 **文明十一年本『下學集』**（静嘉堂文庫蔵紙焼き）、**陽明文庫蔵『下學集』**（陽明叢書）、**春良本『下學集』**（宮内庁書陵部蔵・紙焼き）を使用した。

8 **『大廣益會玉篇』**は、和刻本辞書字典集成2（汲古書院刊）を参照。

9 **『事林廣記』**巻之四正訛門（34～35丁）に上平訛字25対50字、下平訛字16対32字、上聲訛字16対32字、去聲訛字10対21字、入聲訛字14対28字がある。しかし、直接の典拠ではない。

10 **『小野篁哥字盡』**は、寛文版が現在のところ最も古いものであり、萩原義雄**『小野篁哥字盡』**の国語学的研究・その一～その五として駒澤大学北海道教養部研究紀要に掲載して示したものがある。

11 「点画少異字」収載の対漢字対校表は、元和三年本二種を基調にして古写本**『下學集』**として識語のある**文明十一年本『下學集』**と識語のない**陽明文庫蔵『下學集』**これに改編増補の著しい**慶長写本春良本『下學集』**をもって対校する一方、これを継承し、その使用目的も名称も改編した伊勢本系統の**広本『節用集』**、**易林本『節用集』**、これに共通する中国の字書**『大廣益會玉篇』**をもって編纂した。漢字（上下）・字音（上下）・反切（上下）・注記（上下）・字訓（上下）・反切備考・注記備考・字音備考（上下）・字訓備考（上下）をもって示した。まだ、多くの連関する写本をもってそのすべてを検証する必要があるが、まずはひとつの指針としてここに作成したものである。更なる改正をめざしていきたい。

「点画少異字」収載の対漢字対校表

分毫字様排列表

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[湯本]本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	廣益會玉篇	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字調上	字調下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
1	1	1	×	1	1	1	20	20	推	椎	スイ	ツイ	尺隹反	直追反	推讓	鎚也	オス	ツチ		上ハ推シ讓ル也。下ハ槌木(ツチキ)也[春]	スイ	ツイ	ヲス	
2	2	2	×	2	2	2	21	21	絰	經	テツ	キヤウ・ケイ	徒結反	古刑切	孝一	經書	×	タテ		上ハ麻帯[元]。上ハ麻之帯ビ也。下ハ經書ヲ曰也[春]	テツ	キヤウ		
3	3	3	×	3	3	×	25	25	晴	睛	セイ	セイ	疾盈反	七盈反	晴明	目一	ハルヽ	ヒトミ	下子盈切。	上ハ瞼睛(インセイ)。下ハ眼睛(カンセイ)[元]。上ハ霽(ソラ)之晴ルヽ也。下ハ眼之睛ノ義也[春]	セイ	セイ	ハルヽ	マナコ[元]。メノハルヽ[春]
4	4	4	×	4	4	3	27	27	桶	桷	トウ	カク	他孔反	古岳反	器也	椽也	ヲケ	タルキ		上ハ入ル。物ヲ器[元]。上者器物。下者椽(タルキ)也	ツフ	カク		
5	5	5	×	5	5	4	38	38	憧	幢	シヨウ	タウ	尺容反	宅江反	往來	幡也	×	ハタ		性来ノ皃[元]。上ハ往來之皃。下ハ幢与同也[春]	セウ	ドウ		
6	7	7	×	6	8	8	44	44	箕	萁	キ	キ	居之反	巨疑反	箕山	豆萁	ミ	マメガラ		上ハ簸(サル)ル米ヲ器。下ハ豆柄(マメカラ)也[春]	○			
7	8	8	×	7	9	9	48	48	捐	損	エン	ソン	余専反	蘇本反	弃也	傷也	スツル	ソコナフ		棄也[元]。上ハ棄(スツル)也、下ハ害(ソコナフ)也[春]	○		スツル	イタム
8	10	9	×	8	10	10	×	×	篷	蓬	ホウ	ホウ			席類	蓬莱	トマ	ヨモキ		上ハ席ロ之類。雨之時覆(ヲーフ)ル松ニ也。下者蓬(エモギ)之類也[春]				
9	11	10	×	9	11	×	51	51	筧	莧	ケン	カン	古典反	侯辨反	竹通水	莧菜	カケヒ	ヒユ		上者通スル水ヲ竹。下ハ草之類也[春]	ケン	カン	カケヒ	ヒユ
10	12	11	×	10	12	11	56	56	檀	擅	ダン	セン	徒干反	市戰反	栴檀	自専	×	ホシキマヽ		下ハ専也[元]。下ハ木也[広]。上ハ栴檀、下ハ専ラ也[春]	タン	○	マユミ	モツハラ
11	9	12	×	11	13	12	62	62	治	冶	チ	ヤ	直吏反	而者反	理也	人姓	ヲサム	×			○	ヌマ		
12	13	13	×	12	14	×	77	77	菅	管	カン	クワン	古顔反	公短反	菅茅	人姓	スゲ	クダ			○		スゲ	×

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[高田]本下學集	元和[藤本]本下学集	春鳥本下學集	広本節用集	易林本節用集	廣益會玉篇	撰字表記上	撰字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字調上	字調下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
13	14	14	×	13	15	13	79	79	甬	角	エウ	カク	余隴反	古岳反	花發	牛角	×	ツノ			○			
14	15	15	×	14	16	6	84	84	暑	署	シヨ	シヨ	商呂反	時據反	熱暑	省署	アツシ	シルス			○			
15	16	16	×	15	17	7	96	96	陪	倍	ハイ	ハイ	薄來反	蒲罪反	陪從	多也	×	マス			○			
16	17	17	×	16	18	14	100	100	汗	汗	カン	セン	胡幹反	七賢反	熱汗	水名	アセ	セン			○			
17	18	18	×	17	19	15	103	103	挑	桃	テウ	タウ	土凋反	徒刀反	挑撥	果也	カヽグ	モヽ			○			
18	19	19	×	18	20	16	105	105	果	果	カウ	クワ	公老反	公禍反	日色	果福	×	ハタス			○			
19	20	20	1	19	21	17	111	111	天	夭	テン	ヨウ	他前反	於嬌反	天地	折也	ソラ	クジク	於嬌切。		○			
20	21	21	2	20	22	18	117	117	且	旦	シヤ	タン	七也反	得晏反	語辞	早也	カツ	アシタ			○			
21	22	22	3	21	23	19	119	119	東	東	トウ	ケン	德江反	古限反	東西	擇也	ヒンカシ	エラブ	德紅切。		○			
22	23	23	4	22	24	20	88	88	柱	拄	チユ	シユ	直縷反	之与反	梁柱	拄杖	ハシラ	サヽウ			○			
23	24	24	5	23	25	21	104	104	皁	早	サウ	サウ	昨早反	昨皁反	黒也	早晩	クロシ	ハヤシ	黒色。		○			
24	25	25	6	24	26	22	124	124	己	已	コ・キ	ミ・イ	居里反	羊已反	身也	止也	ヲノレ	ヤム	羊里切。		○			
25	26	26	7	25	27	23	×	×	氏	氐	シ	テイ			人姓	星名				上ハ人ノ民。下ハ星ノ名				
26	27	27	8	26	×	24	×	×	興	興	コウ	ヨ			興隆	辞助				下ハ辞ノ助			○	
27	28	28	9	27	28	25	×	×	萩	荻					紫花	芦荻				芦荻。下ハ蒿ノ類	シウ	テキ		
28	29	29	10	28	29	26	211		戊	戉	ム	エツ			戊巳	斧戉之戉	ツチノエ			戊亥	モ	ジユツ	ツチノヘ	イヌ
29	30	30	11	29	30	31	×	×	干	干	カン	ウ			呑干	辞助				上ハ若干。下ハ辞ノ助			ヲカス	コヽロ
30	31	31	12	30	31	27	×	×	全	全[全]					全備	黄金					ゼン	ドウ	マツタシ	ヲナシ
31	32	32	13	31	33	29	×	×	書	畫	シヨ	グワ			文書	畫圖							シルス	エカク
32	33	33	14	32	32	×	×	×	晝	晝	チウ	クワク			晝夜	点晝	ヒル	ジン					ヒル	ジン
33	34	34	15	33	34	32	30	30	棟	棟	レン	トウ	郎甸反	都弄反	木名	屋棟	アフチ	ムナギ	「棟」上古限切。	上ハ梁也。下ハ木ノ名[元]	トウ	レン	ムナギ	アウチ
34	35	35	16	34	36	33	×	×	尋	尋	シユン	シヨク			年始	搗米							ハル	ウスツク
35	36	36	17	35	39	34	×	×	盲	肓	マウ	バウ			盲目	膏肓				下ハ膏(カウ)肓也[春]	マウ	クハウ	メクラ	×
36	37	61	18	36	40	35	×	×	享	享	サイ	キ			享也	壬癸	マツル	ミツノト		上ハ享(ウクル)也[陽]。上ハ祭礼也享(ウクル)也。下ハ十干之内也[春]。			マツル	ミツノト
37	38	62	19	37	41	36	137	13	母	母	ブ	ボ	音巫			父母也	ナカレ	ハヽ		上父母。下無也。上下顛倒。ヒウ・ナシ，モ・ハワ[春]。	モ	ム	ハヽ	ナシ
38	39	63	20	38	42	37	176	53	本	本	ホン	タウ		他刀切	始也		モト			上木本。下件来皃。	ホン	タウ	モト	×
39	40	37	21	39	43	38	×	×	筋	筋	キン	チヨ			筋脈	箸也					キン	チヨ	スヂ	ハシ
40	41	38	22	40	55	39	×	×	爪	爪	クワ	サウ			草實	支体	ブリ	ツメ		上ハ草菓也。下ハ指ビ先キヲ云			ウリ	ツメ

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[淵本]本下學集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	廣益會玉篇	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
41	42	39	23	41	56	40	×	×	皿	血	ヘイ	ケツ			器皿	血脈	サラ	チ		上ハ盛ル[illegible]菜ヲ器。下ハ血脈ク也			サラ	チ
42	43	53	24	42	57	43	190	67	灸	炙	キウ	セキ。シヤ[春]	居佑切	音隻		从肉从火	ヤイト	アブル・ヤク		炮肉故从肉从火［鷹］。上ハ灸治(チ)也。下ハ火中ニ入レテ[illegible]物ヲ煮(ヤク)[春]	キウ	シヤ	ヤイト	アフリモ(ノ)
43	44	43	25	43	×	41	×	×	交	夾	カウ	カツ			交會	夾持							マジワル	ハサム
44	45	44	26	44	59	42	×	×	句	勾	ク	ク			言句	勾引	ヤム	ヒク			ク	コウ	ヤム	ヒク
45	46	40	27	45	60	44	×	×	抄	杪	セウ	ヘウ			抜也	梢也	×	×		上ハ抄出ノ物。下ハ梢(コスヘ)			ヌク	コズエ
46	47	41	28	46	61	45	×	×	升	斗	セウ	シユク			斗升	伯一	マス	ツヽシム		上ハ斗(ト)升也。下ハ伯叔(シユク)ヲ云			×	×
47	49	42	29	47	62	46	×	×	戈	弋	クワ	ヨク			子戈	弋射	ホコ	イル		上ハ干(カン)戈也。下ハ射(イル)也			ホコ	イグルミ
48	50	45	30	48	63	47	×	×	孝	考	カウ	カウ			孝行	勘也	ナジム	カンカウ		上ハ孝厚(カウ)。下ハ考校(カウ)			×	カンガウ
49	51	46	31	49	65	48	×	×	從	徒	シ	ト			移也	輩也	ワタル	トモガラ	從	上者[illegible]ル也。下者輩ヲ也	随也		ウツル	トモガラ
50	52	47	32	50	66	49	×	×	享	亨	キヤウ	カウ			饗也	通也	トヲル	ウクル		上ハ酒(トヲル)也。下ハ受ル也			ウクル	トヲル
51	53	48	33	51	※	50	×	×	印	卯	ラン	バウ			蚩也	寅卯							ヲシテ	ウ
52	48	49	34	52	68	51	×	×	違	遣	イ	ケン			違背	遣[illegible]使	タガウ	ツカハス		上ハ違業。下ハ白蘆(マウシハコツ)			タカウ	ヤル
53	54	50	35	53	69	52	×	×	網	綱	マウ	カウ			魚網	大綱	アミ	ツナ					ヲウツナ	アミ
54	55	51	36	54	70	53	×	×	載	載	タイ	サイ			頂戴	乗載	イタヽク	ノル					イタヽク	ノスル
55	56	52	37	55	71	54	×	×	裁	栽	サイ	サイ			裁[illegible]衣	栽[illegible]木	タツ	ウヽル		上ハ裁衣也。下ハ植(ウユル)[illegible]物ヲ也			タツ	ウユル
56	×	64	38	56	×	×	×	×	元	亢	ケン	カウ					×	×		上元亨。下頸也。			×	×
57	×	×	39	57	×	×	×	×	兄	允	キヤウ	イン												
58	×	×	40	58	×	×	×	×	項	頃	カウ	キヤウ												
59	×	×	41	59	×	×	×	×	生	出	セイ	スイ												
60	×	×	42	60	×	×	1	1	還	還	タツ・タフ	ケン・クワン	徒答反	胡關反	合也	返也	アフ	カヘル			○			
61	×	×	43	61	×	76	2	2	刀	刀	タウ	テウ	都勞反	的聊反	刀斧	人ノ姓(ウヂ)	カタナ	×		上刀剣。下筋力。	○			

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[湯本]本下字集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	類聚名義抄	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
62	×	×	44	62	×	×	3	3	閖	閭	ハウ	サン	布盲反	側衡反	宮門也	立(タツ)テ待(マツ)ル人ヲ	×	×			○			
63	×	×	45	63	×	×	4	4	袖	柚	シウ	チウ	似祐反	徒救反	衣袖	果也	ソデ	ユ・イウ			○			
64	×	×	46	64	×	×	5	5	誅	誅	ルイ	チユ	力癸反	致娛反	祝辭	誅斬	×	キル			○			
65	×	×	47	65	×	×	6	6	閼	閼	ヒ	モン	比冀反	莫困反	懣也	惛	×	×			○			
66	×	×	48	66	×	×	7	7	痤	座	サ	サ	徂和反	徂臥反	短也	座席	ミジカシ	×			○			
67	×	×	49	67	×	×	8	8	窰	窒	井ヨウ	キヤウ・ケイ	音遙	音逕	燒瓦也	空也	ヤキガハラ	ムナシ	上餘昭切。下古定切。	燒瓦	○			
68	×	×	50	68	×	×	9	9	台	台	タイ	イ	湯來反	羊支反	星也	我也	三-星	ワレ			○			
69	×	×	51	69	×	×	10	10	褪	褪	サイ	シ	蘇臺反	相慈反	擡一	木也	×	×			○			
70	×	×	52	70	×	×	11	11	摧	摧	サイ	ザイ	作廻反	昨回反	_-節	摧-折	ヲシ・ス	クダク			○			
71	×	×	53	71	×	×	12	12	熊	羆	イウ	ヒ	于躬反	彼皮反	獸也	獸也	クマ	×			○			
72	×	×	54	72	×	×	13	13	寘	寘	テン	シ	徒賢反	支豉反	一塞	置也	フサガル	オク			○			
73	×	×	55	73	×	×	14	14	韜	韜	タウ	テン	天牢反	出冉反	疑也	媚也	ウタガフ	ヘツラフ	下丑歛切。		○			
74	×	×	56	74	×	×	15	15	滔	滔	タウ	カン	天牢反	胡感反	水也	深也	ヒタヽク	フカシ			○			
75	×	×	57	75	×	×	16	16	搯	搯	サフ	カフ	楚交反	苦洽反	取也	捻也	トル	ヒネル			○			
76	×	×	58	76	×	×	17	17	挼	椄	ナイ・ダイ	スイ	奴回反	而隹反	擊也	木名	ウツ	×			○			
77	×	×	59	77	×	×	18	18	睢	雎	シヨ	スイ	七余反	息唯反	關一	人ノ姓(ウヂ)	×	×			○			
78	×	×	60	78	×	×	19	19	緌	綏	スイ	スイ	而隹反	息隹反	冠也	安也	カウフリ	ヤスシ			○			
79	×	×	61	79	47	×	22	22	冷	冷	レイ	レイ	魯朾反	力丁反	寒冷	冷水清也	スサマジ	イサギヨシ		上ハ冷風也。下ハ清(キーキ)也[春]	○			
80	×	×	62	80	×	×	23	23	打	朾	チヤウ・テイ	タウ・テイ	都冷反	摘莖反	擊也	一聲	ウツ	ツエ			○			
81	×	×	63	81	×	×	24	24	屏	屏	ヒヤウ・ヘイ	ヘイ	必郢反	薄名反	一障	屏風	サフル	シリソク	上必祁切。		○			
82	×	×	64	82	×	×	26	26	否	丕	ヒウ	ヒ	方久反	符鄙反	臧否	屯一	アシヽ	×			○			
83	×	×	65	83	×	×	28	28	凍	凍	トウ	トウ	都弄反	得紅反	氷凍	暴雨	コヲリ	ユフダチ	下得洪切。		○			
84	×	×	66	84	×	×	29	29	寵	寵	ロウ	チヨウ	力董反	勅勇反	孔一	龍愛	アナ	×			○			
85	×	×	67	85	×	×	31	31	惣	總	ソウ	ソウ	作孔反	千弄反	惣集	一檀	スブル	ノキ			○			
86	×	×	68	86	×	×	32	32	援	援	クワン	エン	許願反	韋元反	鞋一	援引	×	タスク		桂一	○			
87	×	×	69	87	×	×	33	33	嶁	峻	ソウ	ス井ン	子公反	蘇俊反	九一	山峻	×	×			○			
88	×	×	70	88	×	×	34	34	狻	猊	ヒン	ソウ	素官反	子公反	_猊	犬子	×	イヌノコ	上素冠切。		○			
89	×	×	71	89	×	×	35	35	種	種	シヨウ	シヨウ	之隴反	之用反	木也	耕一	タネ	タカヘス			○			
90	×	×	72	90	×	×	36	36	樅	撞	シウ	サウ	七弓反	七江反	木名	打鐘也	×	ツケ	下楚江切。	打鐘[元]。鍾也	○		×	ツゲ
91	×	×	73	91	×	×	37	37	橦	撞	トウ	タウ	徒東反	宅江反	花為布	打也	×	ツク		花布。	○			
92	6	6	74	92	7	5	40	40	帷	惟	ヰ	ユイ・イ	于眉反	以隹反	帷幔	辞也	タレヌノ	タヾ		上ハ衣之裳イ。下ハ辨(コーハ)字也[春]	○		カタヒラ	×

	文明十・本學年下集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[湯本]本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	續益會玉篇	漢字去記上	漢字去記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
93	×	×	75	93	×	×	39	39	梔	扼	シ	アク	章移反	烏革反	木也	車扼	クチナシ	×			○			
94	×	×	76	94	×	×	41	41	眙	眙	イ	チ	與之反	丑吏反	遣也	視也	ノコス	ミル			○			
95	×	×	77	95	×	×	42	42	攘	禳	ジヤウ	スイ	汝羊反	音袁	除也	屋棟也	ハラフ	ムナギ	攘臂。下失追切。		○			
96	×	×	78	96	×	×	43	43	時	畤	シ	シ	市之反	時吏反	時節	儲也	トキ	マフク	下時止切。		○			
97	×	×	79	97	×	×	45	45	笞	苔	チ	タイ	丑之反	堂來反	笞責	_苔	ムチ	コケ		笞青	○			
98	×	×	80	98	×	×	46	46	纂	蕁	サン	キ	作管反	巨疑反	纂集	履也	アツム	クツ			○			
99	×	×	81	99	×	×	47	47	笑	笑	セウ	テイ	思妙反	天計反	喜笑	譏到	ワラフ	×			○			
100	×	×	82	100	×	×	49	49	煖	煖	シユン	タン	子閏反	奴緩反	然火	温煖	タキビ	アタヽカ	上七津切。	上ハ火煖[元]。	○			
101	×	×	83	101	×	×	50	50	潛	潛	セン	サン	昨廉反	所姦反	潛藏	淚下	カクル	×			○			
102	×	×	84	102	×	×	52	52	現	現	ケン	ケン	胡硯反	古典反	出也	塗也	アラハル	ヌル			○			
103	×	×	85	103	×	×	53	53	綆	綆	カウ	ヘン	古杏反	婢連反	井索	一縫	ツルベナハ	ヌフ	下娌連切。		○			
104	×	×	86	104	×	×	54	54	塤	琿	ケン	ケン	許袁反	胡犬反	樂也	玉名	×	タマ		樂器。	○			
105	×	×	87	105	×	×	55	55	橪	撚	ゼン	ネン	而善切	奴典反	酸小棗	指也	コナツメ	ヒネル	上人善切。	束也。	○			
106	×	×	88	106	×	×	57	57	搌	榱	テン	テン	知演反	女彦反	束縛	破也	ツカヌ	ヤフル	束也。		○			
107	×	×	89	107	×	×	58	58	琢	琢	テン	タク	音篆	陟角反	壁上文	琢石	×	ミガク			○			
108	×	×	90	108	×	×	59	59	梗	檠	キヤウ	ヘン	古杏反	符善反	桔梗(キキヤウ)	木名	×	クタキ			○			
109	×	×	91	109	×	×	60	60	鞭	鞭	ガウ	ヘン	五幸反	卑連反	堅鞭	打鞭	カタシ	ムチ			○			
110	×	×	92	110	×	×	61	61	參	蔘	タ	タ	陟加反	徒可反	張也	父也	ハル	チヽ	上徒可切。下陟加切。		○			
111	×	×	93	111	×	×	63	63	舜	舜	シユン	カ	詩閏反	古雅反	堯舜	醪一	×	サカヅキ			○			
112	×	×	94	112	×	×	64	64	地	地	シヤ	チ	徐者反	途利反	火一	天地	モエクイ	ツチ			○			
113	×	×	95	113	×	×	65	65	槎	搓	サ	サ	鋤加反	七阿反	水中浮木	手一	ウキヽ	×			○			
114	×	×	96	114	×	×	66	66	絮	絮	ジヨ	チヨ	思據反	抽據反	錦絮	調一	ワタ	×			○			
115	×	×	97	115	×	×	67	67	歐	欺	カン	キ	苦感反	去其反	能言	屈也	×	カヾム			○			
116	×	×	98	116	×	×	68	68	檬	檬	モウ	シヤウ	莫紅反	詳兩反	木也	木也	×	トチ		木名[元]。	○			
117	×	×	99	117	×	×	69	69	敃	敃	ビン	ハイ	武巾反	蒲拜反	和也	乱也	ヤハラグ	ヤブル	上武申切。		○			
118	×	×	100	118	×	×	70	70	駇	馭	ブン	ギヨ	武云反	魚去反	馬名	駕也	×	ノリモノ			○			
119	×	×	101	119	×	×	71	71	暖	暖	ケン	ダン	祝袁反	奴緩反	日大	熱也	オホメ	アタヽカ	上况袁切。		○			
120	×	×	102	120	×	×	72	72	揮	褌	キ	コン	許歸反	戸昆反	指揮	祭服	フルフ	×			○			
121	×	×	103	121	×	×	73	73	髡	髡	タン	コン	丁感反	若昆反	髪垂	去髪	×	ソル		上ハ髪也[元]	○			
122	×	×	104	122	×	×	74	74	根	根	コン	コン	古痕反	戸恩反	根木	急一	ネ	モトル		根本。	○			
123	×	×	105	123	×	73	76	76	禪	禪	セン	タン	市戰反	都寒反	禪讓	禪衣	ユヅル	ヒトエ		上-静也	○			
124	×	×	106	124	×	×	75	75	棺	棺	アツ	クワン	烏活反	古丸反	一船	棺椁	×	×		上ハ棺船[元]。棺梯	○			
125	×	×	107	125	×	×	78	78	販	販	ハン	ハン	方萬反	普班反	販賣	目白	ヒサク	メジロ			○			
126	×	×	108	126	×	×	80	80	畧	畧	リヤク	キ	力著反	居准反	簡畧	日出	ホヾ	ヒカゲ		下ハ日畧[元]	○			
127	×	×	109	127	×	×	81	81	算	算	ヒ	ヘイ	博弥反	博計反	取魚	甑一	ウケ	コシキ			○			
128	×	×	110	128	×	×	82	82	杜	社	シ	チ	思志反	勅里反	枅杌	福也	×	サイハイ			○			
129	×	×	111	129	×	×	83	83	杷	把	ハ	ハ	白麻反	百馬反	枇杷(ヒハ)	執把	×	トル		木杷	○			
130	×	×	112	130	×	×	85	85	褚	楮	チヨ	チヨ	丑呂反	知呂反	人姓	木名	×	カフゾ			○			

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[島本]本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	廣益會玉篇	類字表記上	類字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字調上	字調下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字調上備考欄	元和本字調下備考欄
131	×	×	113	131	×	74	87	87	嵎	嵎	シヨ	シヨ	茲治反	慈呂反	黑也	嵎嶼	ノル	カム	茲于切。		○			
132	×	×	114	132	×	×	86	86	椿	椿	タウ	チン	卓江反	丑屯反	一橛	木也	クサビ	ツバキ		木椿。木名。	○			
133	×	×	115	133	×	×	89	89	枸	拘	ク	ク	倶羽反	舉于反	枸杞(クコ)	拘執	×	カヽユル		木名。	○			
134	×	×	116	134	×	×	90	90	祐	祐	イウ	コ	于救反	胡古反	助也	福也	タスク	サイハヒ			○			
135	×	×	117	135	×	×	91	91	擽	櫟	ラ	リ	洛戈反	力癸反	理也	食器	ヲサム	×			○			
136	×	×	118	136	×	×	92	92	湎	酒	メン	セイ	音免	先禮反	沈一也	酒浣	シヅム	ソヽク		上ハ沈湎[元]。	○			
137	×	×	119	137	×	×	93	93	揩	楷	カイ	カイ	客皆反	古諧反	模也	木名	スル	×		木也。	○			
138	×	×	120	138	×	×	94	94	浮	浮	スイ	ナイ	息遺反	奴罪反	小雨	穢濁	コサメ	ケガル			○			
139	×	×	121	139	×	×	95	95	毒	毒	アイ	トク	於改反	徒木反	無行	悪毒	×	×			○			
140	×	×	122	140	×	×	97	97	荀	筍	シユン	シユン	祖倫反	思尹反	人姓	竹萌	×	タカンナ	上先倫切。		○			
141	×	×	123	141	×	×	98	98	言	言	ケン	ゲン	去偃反	語偃反	並脣皮皃		×	×		並脣破皃。	○			
142	×	×	124	142	×	×	99	99	敵	敵	シヤウ	ヘイ	昌兩反	必計反	開也	極也	ヒラク	キハマル		多也。	○			
143	×	×	125	143	×	×	101	101	挺	挺	テイ	セン	他鼎反	弑然反	挺持	取也	チヤウ	トル		挺時。	○			
144	×	×	126	144	×	×	102	102	揣	椹	シ	セン	初委反	市緣反	度也	木名	ハカル	×			○			
145	×	×	127	145	×	×	106	106	囚	囚	チフ	シウ	得立反	似由反	動也	禁人	ウゴク	トラハレヒト			○			
146	×	×	128	146	×	×	107	107	脛	脛	ゲイ	ケイ	五鼎反	胡定反	直視也	脚脛也	ミハル	ハギ		直視。脚脛。	○			
147	×	×	129	147	×	×	108	108	甲	甲	カフ	アフ	古狎反	古洽反	兵甲	取物	キノエ	×	安洽切。		○			
148	×	×	130	148	×	×	109	109	明	朋	メイ	ホウ	眉兵反	薄登反	清也	黨也	アキラカ	トモ			○			
149	×	×	131	149	×	×	110	110	未	末	ミ	マツ	亡貴反	莫撥反	不也	木上	イマダ	スエ			○			
150	×	×	132	150	×	×	112	112	蒲	滿	ホ	マン	薄胡反	莫旱反	草名	盈也	カマ	ミツ			○			
151	×	×	133	151	×	×	113	113	杳	杳	イヨウ	タフ	伊鳥反	徒合反	冥也	人姓	ハルカナリ	×			○			
152	×	71	134	152	×	×	116	116	子	子	シ	ケツ	即里反	居列反	人姓	単也	×	ヒトエ			ケツ	シ	×	×
153	×	×	135	153	×	×	114	114	恩	思	オン	シ	烏痕反	息茲反	澤也	念也	×	オモフ			○			
154	×	×	136	154	×	×	115	115	堅	堅	シユ	ケン	巨庚反	古賢反	立也	固也	タテ	カタシ			○			
155	×	×	137	155	×	×	118	118	林	材	リン	サイ	力尋反	昨哉反	人姓	木挺	ハヤシ	×			○			
156	×	×	138	156	×	×	120	120	北	比	ホク	ヒ	博墨反	毘至反	南北	黨也	キタ	×			○			
157	×	×	139	157	×	×	121	121	徂	阻	ソ	ソ	昨胡反	側呂反	往也	隔也	ユク	ヘダツ			○			
158	×	×	140	158	×	×	122	122	枝	技	シ	キ	章移反	渠綺反	人姓	藝也	エダ	×		枝柯。	○			
159	×	×	×	×	6	×	×	×	幡	幡	バン	バン			幡(ハタバリ)也	旗(ハタ)也	ハタハリ	ハタ						
160	×	×	×	×	35	×	×	×	太	太	ダイ	タイ			大虛(キヨ)也。	蓋シキ也。	ヲヽキシ	フトシ						
161	×	73	×	×	37	×	×	×	秦	秦	シン	タイ			國之名也	泰平之義	×	ユタカ		×				
162	×	×	×	×	38	×	×	×	巻	奪	クワン	ソウ			經巻也	奪(ソウ)者也	マク	マウス						
163	×	×	×	×	44	×	×	×	活	活	クワツ	クワツ			水濕(コホリ)也	蘇生也	コホリ	イクル						
164	×	×	×	×	45	×	×	×	神	神	チウ	チウ			空(ムヽキ)義	神靈(ヲキツ)之義	ヒイル	ヲキ						
165	×	×	×	×	46	×	×	×	清	清	セイ	セイ			冷(スサマシキ)之義	清淨ノ義	スヾシヽ	キヨシ						
166	×	×	×	×	48	×	×	×	奈	奈	レウ	ナイ			官也	如何也	ツカサドル	イカン						

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[渦本]本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	饗益會玉篇	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
167	×	×	×	×	49	×	×	×	住	佳	チウ	カ			居住也	佳什(ジウ)也	スム	ヨシ						
168	×	×	×	×	50	×	×	×	任	仕	ニン	シ			勤任(ニン)也	官使也	マカスル	ツカユル						
169	×	×	×	×	51	×	×	×	殷	俣	ヤク	コ			勤(ツトム)也	股(マタ)也	ツトム	マタ						
170	×	×	×	×	52	×	×	×	栢	柏	ハク	ハク			櫂(カヤ)也。又栢樹也	櫂(カシハ)ノ之木云	カヤ	カシハ						
171	×	×	×	×	53	×	×	×	栢	伯	ハク	ハク			田之路也	長之義也	ヨコナワテ	ヲト						
172	×	×	×	×	54	63	×	×	侯	候	コウ	コウ			諸侯	氣候	サブラフ	キミ		上ハ伺候也。下ハ公也				
173	×	×	×	×	58	×	×	×	切	功	セツ	コウ			大切(セツ)。切諫(カン)	功節(ーク)。功力。	×	×						
174	×	×	×	×	64	×	×	×	擂	綿	ヘウ	ヘウ					トル	コヅエ		上ハ取ル也。下ハ杪(コヅ)也				
175	※	×	×	×	67	×	×	×	卯	卵	バウ	ラン			十二支内也	鳥之子也	ウ	カイゴ						
176	×	×	×	×	72	70	×	×	著	著	チヨ	チヤク			筋也	付也	ハシ	ツク		上ハ箸(ハシ)也。下ハ樹(シウ)著也				
177	×	×	×	×	73	×	×	×	郎	即	ラウ	ソク			郎宦也	則チ也	ツカサ	スナハチ						
178	×	×	×	×	74	×	×	×	衙	簡	カン	ケン			横(エラブ)也	草ノ簡	エラブ	スゲ						
179	×	×	×	×	75	×	×	×	機	機	キ	キ			機械也	織ル。綾ヲ具ノ類也	エラブ	ハタモノ						
180	×	×	×	×	76	×	×	×	千	千	セン	ヨウ			百千也	分ン令(リヤウ)也	カズ	ホドライ						
181	※	68	×	×	※	×	177	54	卯	卯	バウ	セイ		子兮切	辰也		ウ			上寅卯。下卵生。	ハウ	ラン	ウ	カイコ
182	63	×	×	×	※	×	×	×	印	卯	イン	ハウ					ヨシテ	ウ	卵ラン。カイコ。					
183	×	×	×	×	×	28	×	×	令	仝					使令	同也								
184	×	×	×	×	×	55	198	75	穴	穴	ケツ	ジヨウ		而隴切	窟也		アナ	チル						
185	×	×	×	×	×	56	×	×	解	解					解脱	斛斗								
186	×	×	×	×	×	57	×	×	水	氷							雨水	雪氷						
187	×	×	×	×	×	58	×	×	友	犬					朋友	犬養								
188	×	×	×	×	×	59	×	×	糸	系					衣糸	系圖								
189	×	×	×	×	×	60	×	×	妄	妾					虚妄	女妾								
190	×	×	×	×	×	61	×	×	起	赴					起臥	奔赴								
191	×	×	×	×	×	62	×	×	失	矢					失忘	弓矢								
192	59	×	×	×	×	64	×	×	忽	忽	コツ	ソウ			忽速	奄也	タチマチ	スミヤカ						
193	×	×	×	×	×	65	×	×	紐	紐					經一	結也								
194	×	×	×	×	×	66	×	×	凡	凡					常也	凡案								

	文明十一本下學集	陽明文庫本下學集	元和（島田）本下學集	元和（鵜）本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	類聚名義抄	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
195	×	×	×	×	×	67	×	×	朧	曨					朧月	日又時								
196	×	×	×	×	×	68	×	×	經	迴					經廻	遠一								
197	×	×	×	×	×	69	×	×	逢	逢					相逢	塞也	相遇	塞也	音逢	音屬逢				
198	×	×	×	×	×	71	×	×	別	別					具也	別也								
199	×	×	×	×	×	72	×	×	祐	祐					助也	福也								
200	×	×	×	×	×	75	×	×	丸	丸					八丸	彈丸								
201	×	×	×	×	×	77	×	×	葉	業					枝葉	事業								
202	×	×	×	×	×	78	×	×	雨	兩					雨水	西兩								
203	×	×	×	×	×	79	×	×	養	脊					養育	法脊								
204	×	67	×	×	×	80	×	×	傳	傳	テン	フ			轉傳	助也				上傳受。下大傅。				
205	×	×	×	×	×	81	×	×	土	土					民土	国土								
206	×	×	×	×	×	82	×	×	祖	祖					祖父	祖衣								
207	×	×	×	×	×	83	×	×	五	互					四五	牙也								
208	×	×	×	×	×	84	×	×	木	朮					草木	白朮								
209	×	×	×	×	×	85	×	×	兎	免					猪兎	脱也								
210	×	×	×	×	×	86	×	×	市	市					町市	周一								
211	×	×	×	×	×	87	×	×	帥	師					将帥	師匠								
212	×	×	×	×	×	88	×	×	荷	候					伺候	大也								
213	×	×	×	×	×	89	×	×	風	夙					風雨	早夙								
214	×	×	×	×	×	90	×	×	今	令					古今	使令								
215	×	×	×	×	×	91	×	×	帷	帳					帷帳	失忘								
216	61	54	×	×	×	×	×	×	幼	幻	ヨウ	ゲン					イトケナシ	マホロシ	[文十一]上下顛倒配置。	上ハ幼少。下ハ夢幻。				
217	×	55	×	×	×	×	×	×	稚	雅	チ	カ					ワカシ	タヽシ		上ハ幼稚。下ハ風雅。				
218	×	56	×	×	×	×	×	×	甲	甲	カツ・カウ	カウ					キノヘ	ヨロイ		上ハ甲乙。下ハ胄。				
219	×	57	×	×	×	×	×	×	胄	胃	チウ	イ					カフト	クツフクロ		上ハ甲胄。下ハ脾胃。				
220	×	58	×	×	×	×	×	×	烏	鳥	ウ	テウ					カラス	トリ		上ハ烏鵲。下ハ鳥獣。				
221	×	59	×	×	×	×	×	×	鄕	卿	キヤウ	ケイ					サト	ナンチ・キミ		上ハ鄕里。下ハ公卿。				
222	×	60	×	×	×	×	×	×	楊	揚	ヤウ						ヤナキ	アクル		上ハ楊柳。下ハ挙揚。げる				
223	×	65	×	×	×	×	×	×	季	李	キ	リ					スエ	スモヽ		上季昆。下桃李。				
224	×	66	×	×	×	×	×	×	杏	杏	キヤウ	ヨウ					カラモヽ	ハルカ也		上紅杏。下杏冥。				
225	×	69	×	×	×	×	127	2	鍾	鐘	シヨウ	シヨウ			酒器	樂器	サカヅキ	カネ		上鐘皷。下酒鍾。	セウ	シヨウ		アツム
226	×	70	×	×	×	×	×	×	迫	迫	×	ハク					ツフリ	セマル		×				
227	×	72	×	×	×	×	169	46	匕	匕	ヒ	ケ	音妣	呼罵切音化				カハル			キ	×	×	×

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和[島田]本下學集	元和[湯本]本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	擴益會玉篇	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
228	57	×	×	×	×	×	×	×	屓	負	キ	フ			贔屓	勝負	チカラヲコシス							
229	58	×	×	×	×	×	×	×	結	結	ケツ	カウ					ムスフ	マキルヽ						
230	60	×	×	×	×	×	×	×	嬴	嬴	ヱイ	ルイ					カツ	ツカル	嬴ヱイ。秦姓女也。					
231	62	×	×	×	×	×	×	×	鈎	鈎	キン	テウ					ツル	ツリハリ	鈎コウ。カキ。					
232	64	×	×	×	×	×	×	×	予	弔							ワレ	トフラウ	矛ホウ。ホコ。					
233	65	×	×	×	×	×	×	×	久	彡	キウ	サイ					ヒサシ	ユルシ						
234	×	×	×	×	×	×	123	123	辨	辦	ヘン	ヘン	平免反	蒲莧反	別也	理也	ワキマフ	コトハリ			○			
235	×	×	×	×	×	×	125	×	偏	徧	ヘン	ヘン	房連切	方見切	不正也	周也	ヒトヘニ	アマネシ			×			
236	×	×	×	×	×	×	126	1	芃	兀	ホウ	カウ	音蓬	古肴切			×	×			×			
237	×	×	×	×	×	×	128	3	丰	手	ホウ	カイ	音峯	柯邁切			×	×			×			
238	×	×	×	×	×	×	129	4	支	支	シ	ホク	音巵	普卜切		攵同	サヽフ				×			
239	×	×	×	×	×	×	130	5	冢	冢	ミ	シン	音弥	所今切			×	×			×			
240	×	×	×	×	×	×	131	6	攸	攸	キ	イ	音欺	於離切			×	×			×			
241	×	×	×	×	×	×	132	7	遲	遲	チ	チ	音犀	直利切			ヲソシ				×			
242	×	×	×	×	×	×	133	8	搥	槌	ツイ	ツイ		丈媿切	擊也		ウツ	ツチ	丈魏切			×		
243	×	×	×	×	×	×	134	9	蚩	蚩	シ	テン		丑善切	虫名		ミダル				×			
244	×	×	×	×	×	×	135	11	樟	樗	チヨ	ハ		胡覇切	木也		アフチ				×			
245	×	×	×	×	×	×	136	12	无	旡	ム	キ	音無	乃既字			ナシ	スデニ			×			
246	×	×	×	×	×	×	138	14	須	須	シユ	キ	音需	音頴			×	×			×			
247	×	×	×	×	×	×	139	15	趨	趍	スウ	チ		古馳字	走也		ワシル	ハス			×			
248	×	×	×	×	×	×	140	16	蘆	芦	ロ	ロ	音盧	胡古切			アシ				×			
249	×	×	×	×	×	×	141	18	回	囘	クワイ	メン	音徊	名箭切			メグル				×			
250	×	×	×	×	×	×	142	19	脣	脣	シン	シン		之人切	口脣		クチビル	ヲドロク			×			
251	×	×	×	×	×	×	143	20	筠	筠	イン	ハク		抱角切	竹也		タケ				×			
252	×	×	×	×	×	×	144	21	文	攵	ブン	ホ	音紋	普斗切			フミ				×			
253	×	×	×	×	×	×	145	22	云	云	ウン	トツ	×	他骨切	言也	×	イハク				×			
254	×	×	×	×	×	×	146	23	刊	刋	カン	セン	×	七見切	削也	×	ナヅル	×			×			
255	×	×	×	×	×	×	147	24	筆	蕈	タン	テン		多殄切	筒也		×	×	筒也			×		
256	×	×	×	×	×	×	148	25	班	斑	ハン	ハン			行也	駁文也	ツラナル	マダラ			×			
257	×	×	×	×	×	×	149	26	憐	怜	レン	レイ		郎丁切	愛也	心子	アハレム				×			
258	×	×	×	×	×	×	150	27	弦	絃	ケン	ケン			弓弦	琴用	ユヅル	コトノヲ	胡甸切。		×			
259	×	×	×	×	×	×	151	28	煙	烟	ヱン	イン	音咽	伊真切		烟煙	ケフリ				×			
260	×	×	×	×	×	×	152	29	祆	祆	ケン	イヨウ	音掀	一喬切				ワザハヒ	乙喬切。		×			
261	×	×	×	×	×	×	153	30	遷	迁	セン	セン			移也	伺候也	ウツル	ウカヾフ			×			
262	×	×	×	×	×	×	154	31	船	舡	セン	カウ		許江切	舟也		フネ	フネ			×			
263	×	×	×	×	×	×	155	32	苗	苗	メウ	テキ		徒歴切	稼也		ナエ							
264	×	×	×	×	×	×	156	33	商	商	シヤウ	テキ	音傷	都力切			×	×	都歴切。					
265	×	×	×	×	×	×	157	34	迎	迎	ケイ	イン		於忍切	迓也									
266	×	×	×	×	×	×	158	35	燈	灯	トウ	テイ	音登	的廷切										
267	×	×	×	×	×	×	159	36	尤	尤	イウ	ワウ	音郵	一皇切					乙皇切。					
268	×	×	×	×	×	×	160	37	休	休	キウ	ク		音煦	息也		ヤスム							
269	×	×	×	×	×	×	161	38	壬	壬	ジン	テイ		他頂切	干也		ミヅノエ							

	文明十一年本下學集	陽明文庫本下學集	元和［島田］本下學集	元和［湯本］本下学集	春良本下學集	広本節用集	易林本節用集	廣益會玉篇	漢字表記上	漢字表記下	字音上	字音下	反切上	反切下	注記上	注記下	字訓上	字訓下	反切備考欄	注記備考欄	古写本字音上備考欄	古写本字音下備考欄	元和本字訓上備考欄	元和本字訓下備考欄
270	×	×	×	×	×	×	162	39	蠶	蚕	サン	テン	昨含切	他典切			カイコ	ミヽズ						
271	×	×	×	×	×	×	163	40	鶉	鶉	アン	アフ		烏甲切	鶉也		ウヅラ	カモ						
272	×	×	×	×	×	×	164	41	檐	檐	タン	エン			荷也	与簷同	ニナフ	ノキ	儋					
273	×	×	×	×	×	×	165	42	惣	總	ソウ	コツ		呼骨切	聚也		スブル		總。惣。					
274	×	×	×	×	×	×	166	43	冢	冢	テウ	モウ		莫紅切	丘也		ツカ	カウフル						
275	×	×	×	×	×	×	167	44	紙	紙	シ	テイ	音咫	丁兮切			カミ	イトクヅ						
276	×	×	×	×	×	×	168	45	技	技	ギ	ハク		匹角切	藝也			ウツ	技、技					
277	×	×	×	×	×	×	170	47	柿	柿	シ	ハイ		芳廢切	果也	木片	カキ	コケラ						
278	×	×	×	×	×	×	171	48	卉	卉	キ	サフ		先合切	草也	三十	クサ							
279	×	×	×	×	×	×	172	49	取	耴	シユ	テフ		張躡切	獲也		トル							
280	×	×	×	×	×	×	173	50	躰	体	テイ	ホン		蒲本切	膚也		ハダエ	ヲトル	體。					
281	×	×	×	×	×	×	174	51	改	改	カイ	イ	古亥切	羊止切			アラタム							
282	×	×	×	×	×	×	175	52	哂	哂	シン	ア			笑也	与唖同	ワラフ	ヲシ						
283	×	×	×	×	×	×	178	55	藥	藥	カウ	カウ	音考			藥同	カルヽ	ワラ	古老切。					
284	×	×	×	×	×	×	179	56	裸	裸	ラ	クワン		古喚切	袒也		アカハダカ	テアラフ						
285	×	×	×	×	×	×	180	57	卬	卬	キヤウ	キヨウ		渠客切	瞻也		アヲク・ミル	イタハル	渠容切。					
286	×	×	×	×	×	×	181	58	四	皿	シ	バウ	音肆	亡往切				アミ						
287	×	×	×	×	×	×	182	59	刺	刺	シ	ラツ	音次	來末切			サス	モトル						
288	×	×	×	×	×	×	183	60	謚	諡	シ	エキ	音示	伊昔切			ヲクリナ							
289	×	×	×	×	×	×	184	61	派	派	ハイ・ハ	コ		攻乎切	別也	水名	ミナマタ・ハ							
290	×	×	×	×	×	×	185	62	屆	屆	カイ	テン		徒連切	至也		イタル・キ ハマル	アナ						
291	×	×	×	×	×	×	186	63	耒	耒	ライ	テツ		刀悅切	農器		スキ							
292	×	×	×	×	×	×	187	64	吠	吠	ベイ	タイ		徒介切	鳴也		ホフル	ナムル						
293	×	×	×	×	×	×	188	65	莧	莧	カン	ケン		古典切	菜名		ヒユ	カケヒ	胡官切。					
294	×	×	×	×	×	×	189	66	段	段	ダン	カ	音段	古雅切			クダ／＼							
295	×	×	×	×	×	×	191	68	沐	沐	モク	ジユツ	音木	時律切			カミアラフ							
296	×	×	×	×	×	×	192	70	伏	伏	フク	タイ	音服	徒盖切		地名	フス							
297	×	×	×	×	×	×	193	69	速	速	ソク	セキ		子赤切	疾也		スミヤカナリ							
298	×	×	×	×	×	×	194	71	俗	俗	ゾク	キツ	音續	渠吉切			ナラフ							
299	×	×	×	×	×	×	195	72	谷	谷	コク	キヤク		巨句切	谿谷		タニ							
300	×	×	×	×	×	×	196	73	匹	疋	ヒツ	セイ	僻吉切	之盛切		古雅字	タグヒ		又古大雅字。					
301	×	×	×	×	×	×	197	74	戌	戉	ジユツ	シユ	音恤	音庶		舍也	イヌ	マボリヤ						
302	×	×	×	×	×	×	199	76	額	領	カク	カク			頭額	牌一	ヒタイ							
303	×	×	×	×	×	×	200	77	夕	夕	セキ	タン		竹凡切	朝夕		ユフベ							
304	×	×	×	×	×	×	201	78	錫	錫	シヤク	イヤウ		餘章切	鉛類	兵名	ナマリ							
305	×	×	×	×	×	×	202	79	裼	裼	セキ	イヤウ		余章切	袒一		カタヌグ							
306	×	×	×	×	×	×	203	80	滴	滴	テキ	シヤウ	音的	式羊切			シタヅ							
307	×	×	×	×	×	×	204	81	掐	掐	カフ	タウ		他刀切	抓也		カク							
308	×	×	×	×	×	×	205	×	鼓	鼓	コ	×			鐘鼓	一擊	ツヾミ	ウツ						
309	×	×	×	×	×	×	206	×	美	美	カウ	ビ			与羔同	美惡	ヒツジノコ	ウルハシ						
310	×	×	×	×	×	×	207	×	疋	疋	シヨ	ヒツ	山於切	僻吉切										
311	×	×	×	×	×	×	208	×	王	玉	キウ	ギヨク		魚欲切	玉人		タマスリ	タマ						
312	×	×	×	×	×	×	209	×	臼	臼	イウ	カン	夷周切	乎舊切										
313	×	×	×	×	×	×	210	×	丹	月	タン	シウ			与丹同	与舟同	アカシ	フネ	月		ニク	シヽ	与肉同	